第13講

意見・根拠の紡ぎ方(4)

対立する物事から新しい見識を見出す【弁証法】

チャプター1

レクチャー

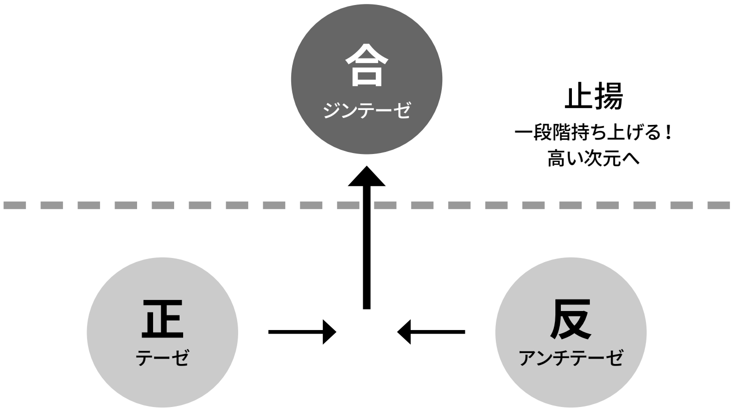
ポイント

　自分の意見や根拠、展望を論じるとき、他者から(　　　　　　　　)されることがある。自分の主張の(　　　　　　　　)性が否定されることになるので、あらかじめどのような(　　　　　　　　)を受けるのかを想定する。

　こうしたときの対処の方法の一つとして、(　　　　　　　　)法が考えられる。

　自分の主張(　　　　　　　　)と相手の主張(　　　　　　　　)をともに取り入れ(　　　　　　　　)、
よりよい解を導く(　　　　　　　　)。

○ 弁証法



生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター2

問題およびヒント

問題を見てみよう

　ベビーカーを電車やバスに乗せることについて、必要とする人がいる一方、そのことにさまざまな理由で否定的な考えの人たちもいます。あなたが、電車・バス会社の社長だったとして、ベビーカーの利用についての会社の方針・アイデアを示した上で、現在、ベビーカーを必要とする人、否定的な考えの人双方の理解を得ることができるような説明を加え、あなたの考えを600字以内で述べてください。

（昭和女子大学　生活科学部　環境デザイン学科　推薦　2016　改題）

生徒メモ欄

教員記入欄

解答案を
つくって
みよう

100
200
300
400
500
600

(　　　　　字)

生徒メモ欄

教員記入欄

自己評価表

答案が完成したら、以下表を用いて自己評価してみましょう。
５段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S A B C F
意見（主張）	設問と意見の関係	S A B C F
	独自性・独創性・発展性	S A B C F
理由（根拠）	事実に基づいた論証	S A B C F
	重要性・問題性	S A B C F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S A B C F
	簡潔な記述	S A B C F
表記・表現	誤字・脱字	S A B C F
	段落の設定	S A B C F
	制限字数	S A B C F
	文体の統一	S A B C F
	表現技法	S A B C F

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター3

答案例①

　バスや電車は、誰もが利用する公共交通機関である。よって、ベビーカーを必要とする人、ベビーカーに対し否定的な考えを持つ人も、互いに思いやり譲り合いの精神があれば気持ちよく乗ることができると考える。

　まず、問題になるのが通勤・通学の際の混雑時ということになるだろう。混み合った車内にベビーカーは邪魔でしかない。そして、そのベビーカーに乗る赤ちゃんも危険にさらされることになる。混雑時は避けるというのは、双方にとってメリットとなる。しかし、やむを得ず混雑時に乗るといった場合はどうだろう。すべての車両という訳にはいかないとしても、所定の場所を確保しておく必要があると考える。例えば女性車両に設けるなど、指定の場所へ乗り込むようにする。スムーズな乗車を促すために、視覚的に、こちらの車両、こちらの場所と分かるようにしておくことも大切だと考える。

　ベビーカーに限らず、車いす、お年寄りなど、思いやり譲り合いを必要とする方は多くいるので、優先席も設けている。だからといって、このような人のみが優遇という訳ではない。通勤・通学の混雑時は、時間に追われ急いでいる、毎日通って疲れている、そのような方々に対し、やむを得ない状況でない限りは、時間をずらす、通行の妨げにならないよう気を付けるなど、配慮することも必要であると考える。互いに気持ちよく公共交通機関が利用できるよう、ご協力頂きたい。

(598字)

生徒メモ欄

教員記入欄

自己評価表

答案が完成したら、以下表を用いて自己評価してみましょう。
５段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

観点	項目	評価
設問の理解	出題の意図および背景の理解	S A B C F
意見（主張）	設問と意見の関係	S A B C F
	独自性・独創性・発展性	S A B C F
理由（根拠）	事実に基づいた論証	S A B C F
	重要性・問題性	S A B C F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S A B C F
	簡潔な記述	S A B C F
表記・表現	誤字・脱字	S A B C F
	段落の設定	S A B C F
	制限字数	S A B C F
	文体の統一	S A B C F
	表現技法	S A B C F

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター4

答案例②

　ベビーカー乗車について受け入れる体制を整え、かつ他の乗客にも心身の我慢がない状態を目指していきたい。その為に保育サポート者の同乗サービスを導入しようと思う。

　ベビーカー乗車が議論となるのは圧倒的に通勤通学の混雑時間帯である。ベビーカーに大きく場所を取られたことで乗車できずに遅刻したり、疲れた体で立っているのに子どもを押さないように気を付けるといったことを経験した人が、子連れに不満を募らせることは理解できる。一方でそのような時間帯に子どもを連れて外出するのには回避しがたい必要があると想像できる。利害が相反するこの二者では対立するだけであるから、サポート者という第三者を介在させることで軋轢を緩和させる狙いだ。保護者は人の手助けがあれば子どもと荷物は抱えてベビーカーを畳むことができるし、独りでは大勢の他人に声を出す勇気が出なくても、味方がいることで「すみません」「ありがとうございます」の一言も出やすくなると考えたのである。協同経験は孤独になりがちな都市部で子育てする親にとって意義ある仕組みであろう。

　このサポートは保育や交通工学を学ぶ学生の実習として活用してもらうことを想定している。ベビーカーメーカーの商品開発部に参加してもらうのも効果的だ。この取り組みから、実体験を積んだ保育士が育ち、移動しやすい駅や車両の開発が進み、新しい形のベビーカーも企画される可能性がある。

(596字)

生徒メモ欄

教員記入欄

自己評価表

答案が完成したら、以下表を用いて自己評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S A B C F
意見(主張)	設問と意見の関係	S A B C F
	独自性・独創性・発展性	S A B C F
理由(根拠)	事実に基づいた論証	S A B C F
	重要性・問題性	S A B C F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S A B C F
	簡潔な記述	S A B C F
表記・表現	誤字・脱字	S A B C F
	段落の設定	S A B C F
	制限字数	S A B C F
	文体の統一	S A B C F
	表現技法	S A B C F

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター5

レベルアップのための読書案内

本講で学んだことをブラッシュアップするために、
おすすめ書籍情報や本の読み方を学びましょう。

講義メモ欄

生徒メモ欄

教員記入欄